

自転車に乗って

東京夢舞いポタリング

2013年10月13日『東京夢舞いポタリング・マラソン』が都内で開催され、ポタリング部門に出場してきた。

この大会は、東京の町を縦横にフルマラソンと同じ42・195^キ、自転車でのんびりと楽しむもの。「東京の町を車から人へ」というメッセージを発信しながら、タイムは競わず進んでいく。市民による手作りの大会だ。障がいがある方も、もちろん参加可能。ハンドサイクルを使った下半身麻痺がある人や、伴走者と走る全盲の方もたくさん参加している。あらゆる人々に門戸を広げているのだ。

スタートは9時。ランナーもサイクリストも、交通規制のない一般道路を走るため、1分間隔で30人ごとの時差スタート。

ここで感動したのは、ポタリングもマラソンも同時にスタートするところ。これがなかなか面白い。同じ



新しく生まれ変わった歌舞伎座の前で

Tシャツに身を包んだランナーとサイクリストが、道路上でお互い手を振り合いながら、コースを進んでいく。東京の町の中で人間の一体感が感じられ、心が温まった。

道を進んで行くと、同じTシャツを着た方々がトンクとビニール袋を持って歩いている。ゴミを拾いながらウォーキングするトンク隊だ。大会の主催者、そして賛同する人々の

心意気が素晴らしい。

コース上には、随所随所にボランティアの人々が立って道案内をしたり、参加者を勇気づけてくれる。それぞれが「プラカード」を持ち「あと残り半分！頑張っ！」などのメッセージを発信している。温かいメッセージをしつかり読み取れるような速度で行こう、そう思える演出だった。

さて、コース上には新しく生まれ変わった歌舞伎座、東京の新しい町



ポタリングもマラソンもみんなで一斉にスタート

並みが一望できる晴海大橋、東京グレートブリッジ、そして東京スカイツリーなど景色は圧巻。まさに観光気分が小グループごとについて、安全に誘導してくれるのもありがたい。有名メロンパンを食べたり、写真を撮影したり、楽しみ方はいろいろだ。ランチは通りがかりのラーメン屋へ。塩ラーメンは、汗をかいたあとに食べるのと格別。海の家で真夏に食べるラーメンの味が、ふと頭をよぎった。

コース終盤に「亀戸香取神社」を訪れる。ここはスポーツの神様として名高い。気合をいれてお参りした。どうか、私が大好きなトライアスロンで、苦手なスイムを克服できますように。



街中のゴミを拾いながら42.195^キ。歩くトンク隊

そして、ゴールはスタートと同じ国立競技場へ。外から競技場に入っているとき、トラックを一周回ってゴールする。会場ではスタッフの大きな拍手で迎えられ、あたかもマラソンのトップ選手になった気分だ。こんなに気分のいいゴールはなかなかない。この国立競技場は、2020年のオリンピック開催に向けて来年度、取り壊される。私にとっては、ここを最後に利用できる貴重な日になった。

完走賞にはバラ1輪とタイムの記載がない完走記録が手渡された。タイムに一喜一憂しない大会は、参加者もボランティアも最後まで笑顔がいっぱいの大会だった。



スポーツの神様にお参り



蔵本理枝子 くらもと・りえこ
北里大学医学部卒業、いとう整形外科副院長。整形外科医としての立場で、自らトライアスロンなどの大会に参戦した経験から、自転車やマラソンの痛み相談を雑誌やテレビなどで行い人気を博している。著書に「自転車女医のサイクリック」(樞出版社)。東京中日スポーツ「教えて!エチ先生」など連載企画多数。